

〈PR〉

カラダの 相談室



梅田脳・脊髄・神経
クリニック(大阪)
町田脳神経外科(東京)



理事長 田辺 英紀さん

第2回

首の痛み、手のしびれ、 使いにくさ

首の痛み、手のしびれなどは首の神経障害かもしれません。原因となる部位を明らかにして、まずは保存的治療です。それでも治らず困ったときは手術がとても有効です。神経外科の低侵襲な顕微鏡下の減圧手術で症状の消失、改善が見込めます。

様子見せず一度はMRIを 生活で困ると手術の選択も

Q 首の痛み、手のしびれ、
使いにくさなどの原因や治療
法を教えてください。

A 頸椎(けいつい)が経年変化で変性し、骨棘(こつきょく)骨のとげ)やヘルニアが発生します。それにより、首の神経が圧迫・刺激され、首や手に痛み・しびれを起していきます。腫瘍も時に原因となります。進行すると、手足の使いにくさや両手足のしびれ感、感覚障害、さらには排泄(はいせ)障害になることもあります。

まず、治療を考えるときに大事なことは、症状を起こす原因が脊髄(せきずい)にあるのか、脳なのかを神経学的に突き止めることです。歩きにくさなどは、腰部脊柱管狭窄症(せきまうくわさくしょう)と違っておられる人が多くいます。原因は腰ではなく、脳の障害や首の神経障害のほか複合的に起ることもあります。

また、症状が軽度であれば多くの人は痛みやしびれなどを我慢し、様子を見ている。しかし、その症状が脳梗塞の前兆ではないかと思つて、当クリニックに来院・相談する人がいます。この考え方は非常に大事なことです。原因究明のためにも一度はMRIのある医療機関で検査を受けることをお勧めします。

当クリニックでは最先端機器で解像度の高い3・0テスラMRIや神経伝導速度検査、筋電図、デジタル脳波計、頸動脈エコーなどの検査機器を導入し、原因となっている病巣などを確定しています。その結果、保存的治療か手術適応なのかを判断しています。もちろん最初は保存的治療です。「薬剤治療」と「ペインクリニック」、それから「理学療法」です。これが最初にやるべき治療になります。



たなへ・ひき 1984年、大阪医科大学卒業。医学博士。北野病院などで脳神経外科手術の研究を重ね、城山病院院長や田辺脳神経外科病院院長を歴任。年間600件以上の脳・脊髄手術を行う。2020年より梅田脳・脊髄・神経クリニックと町田脳神経外科(東京)の理事長を兼任。24年、日本脳神経減圧術学会会長。

☆梅田脳・脊髄・神経クリニック 大阪市北区太融寺町3の24 日本生命梅田第二ビル1階 TEL06・6312・0011
☆町田脳神経外科 東京都町田市根岸町1009の4 TEL042・798・7337

〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局